

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果(公表)

公表: 令和6年3月

		チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	改善目標・工夫している点など
環境・ 体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	5			
	2	職員の配置数は適切である	4	1		配置基準以上の職員を配置している。
	3	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている	5			
業務改善	4	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	5			
	5	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	5			
	6	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	5			ホームページに掲載している。
	7	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	2	3		外部の目が入る機会を増やしていきたい。
	8	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	5			研修をした職員が報告を行い共有している。
適切な 支援の 提供	9	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	5			
	10	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	5			
	11	活動プログラムの立案をチームで行っている	4		1	立案されたプログラムをチームで精査するようにしている。
	12	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	4	1		今後も固定しないよう努めていきたい。
	13	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	5			長期休みには特別プログラムを考案し普段できない活動をしている。
	14	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している	5			
	15	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	5			毎日2回ミーティングで確認している。
	16	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	5			
	17	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	5			個々の記録を取っている。
	18	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	5			6ヶ月ごとのモニタリングを行い、個々に合わせたプログラムを組んでいる。
19	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせ合わせて支援を行っている	5				

関係機関や保護者との連携	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	5				
	21	学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っている	5				
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている					現在は医療的ケア児の受け入れをしていない。
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている	5				関係各所と連携を図っている。
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している	5				
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	5				
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある			5		
	27	(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加している	5				協議会、事業所連絡会へ参加し、内容を職員に周知している。
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	5				今後は更に情報を共有していくよう努めたい。
29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている	4	1			必要に応じて個別でペアレントトレーニングを行っている。	
保護者への説明責任等	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	5				入園時に説明している。
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	5				随時面談を行っている。
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	3	2			今年度は座談会を開いたので、今後も機会を増やしていきたい。
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	5				苦情解決委員会に報告し迅速に対応を心掛けている。
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	5				毎月お知らせを配布し、行事等はホームページに掲載している。
	35	個人情報に十分注意している	5				
	36	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	5				
	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている			5		コロナ禍で行事は中止となっていたが、来年度は地域の方々をお招きしてチャリティーフェアを行い、児童もチアダンスを披露し一年間の成果を発表する予定である。

非常時等の対応	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	5			緊急時の対応については、お知らせを配布し説明、また開示を行っている。感染症については流行の兆候があった際に個別に伝えている。
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	5			年に少なくとも2回避難訓練を行っている。
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	5			虐待防止の研修を行った。
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している	5			車イスや身体保持のためのベルトも個別計画に記載し同意を得ている。
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	5			食事の提供を行っていない。
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	5			事例集はないが、情報は共有している。

児童発達支援事業所における自己評価結果(公表)

公表:令和 6年 3月

事業所名 こどもひろば風

		チェック項目	はい	どちらとも いいない	いいえ	改善目標、工夫している点など
環境・ 体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	5			
	2	職員の配置数は適切である	5			配置以上の職員を配置している。
	3	生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっている。また、障害の特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされている	5			階段は事故が起こらないよう常に注意し支援に当たっていきたい。
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっている。また、子ども達の活動に合わせた空間となっている	5			衛生管理を徹底している。
業務改善	5	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	5			
	6	保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	5			ご指摘があったところは改善するよう努めている。
	7	事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開している	5			ホームページで公開している。
	8	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	2	3		
	9	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	5			研修した職員は研修報告を必ず行っている。
適切な支援の提供	10	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成している	5			6ヶ月ごとにアセスメント表を使い評価している。
	11	子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用している	5			
	12	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援(本人支援及び移行支援)」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されている	5			
	13	児童発達支援計画に沿った支援が行われている	5			出席している児童の個別計画を手元に置き常に確認しながら支援している。
	14	活動プログラムの立案をチームで行っている	5			チームで立案出来るよう心掛けている。
	15	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	5			固定化しないよう日々順番や内容を考えて支援している。
16	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成している	5			個別・集団プログラムを組み合わせている。	

		チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	改善目標、工夫している点など	
	17	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	5			毎日2回のミーティングで確認している。	
	18	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	5				
	19	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	5				日誌をはじめトレチェック表など記録をつけている。
	20	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断している	5				6ヶ月ごとのモニタリングを行っている。
関係機関や保護者との連携関係機関や保護者との連携	21	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	5			出来るだけ多くのメンバーで行っている。	
	22	母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っている	5			関係機関とはケース会議等を行い連携を図っている。	
	23	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合) 地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っている					
	24	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合) 子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えている					
	25	移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	5			関係各所と連携を図っている。	
	26	移行支援として、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	5				
	27	他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	5			事業所連絡会等で様々な専門機関ともかかわり研修を行っている。	
	28	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障害のない子どもと活動する機会がある	2	3		チャリティーフェア等で交流がある。	
	29	(自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加している	5			協議会・事業所連絡会等の意見等は共有している。	
	30	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	5			個別計画を元に状況を共有するように努めている。	
31	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)の支援を行っている	5			個別でのペアレントトレーニングは行っているが、集団では心理士の配置がないために行っていない。		
32	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	5			入園時に説明している。		

	チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	改善目標、工夫している点など
33	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ている	5			6ヶ月毎に説明し同意をいただいている。

		チェック項目	はい	どちらとも いいえ	いいえ	改善目標、工夫している点など
保護者への説明責任等	34	定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	5			随時面談を行っている。
	35	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	3	2		今年度は座談会を開き保護者同士が関われる機会を設けたので、今後も続けていきたい。
	36	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応している	5			相談には迅速に対応できるようにしている。いつでも面談できるような体制をとっているが、更に周知していきたい。
	37	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	4			毎月お知らせを配布するとともにホームページに掲載している。
	38	個人情報の取扱いに十分注意している	5			個人情報の取り扱いには常に注意し、肖像権及び掲載許可承諾書等でも確認している。
	39	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	5			配慮できるよう常に努めている。
	40	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	5			チャリティーフェアには地域住民を招待し、児童のチアダンスを発表しているが、コロナ禍で中止となっていたが、来年度は通常通り開催する予定である。
非常時等の対応	41	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施している	5			緊急時の対応については文書を配布し説明している。感染症については流行の兆候があった際に個別に伝えている。
	42	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	5			少なくとも年に2回避難訓練を行っている。
	43	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認している	5			服薬やてんかん発作については保護者と連絡をとり、常に手元に資料を置き確認している。
	44	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている				食事の提供をしていない。
	45	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	5			月に一度ヒヤリハット・事故報告を全員で確認している。
	46	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	5			研修会を行い周知している。
	47	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載している	5			現在身体拘束を行わなければならない児童はいないが、いる場合は計画に記載していく。